

議会だより

<http://gikai.city.mitoyo.lg.jp/>

12月定例会

- ② 議案報告
- ③ 政治倫理委員会
- ④ 審議結果
- ⑤ 一般質問
- ⑬ 視察研修報告
- ⑭ 委員会審査
- ⑮ 要請書回答
- ⑩ 学校紹介

2
2019年
月号
No.30

今定例会では次のことが決まりました

- 平成30年度補正予算 …… 11件可決
- 条例に関する議案 …… 6件可決
- その他市長提出議案 …… 8件可決
- 決議案 …… 1件可決
- 議員派遣 …… 1件可決

この中から、議案をピックアップし、ご紹介します。

平成30年 第4回 定例会の概要

【会期 12月4日～21日】

まちの将来像

「One MITOYO」 ～心つながる豊かさ実感都市～
地域の特性や一人ひとりの個性を生かした三豊ならではの「Only One」をつくりながら、多くの課題に対し、チームみとよとして心ひとつに立ち向かうことで豊かさを実感し、夢や希望をかなえることができるまち。

人口目標 63,500人^{プラス}

現在の人口である63,500人を維持し、「さらなる人口増加」と「交流人口・関係人口の拡大」をめざす。

基本目標

- ①【産業・交流】にぎわいが地域を元気にするまち
- ②【教育・文化・人権】知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち
- ③【健康・福祉・医療】子どもが健やかに育ち、生涯笑顔で過ごせるまち
- ④【暮らし】人と自然が守られる定住のまち

基本方針 ① 市民が可能性を切り開くまちづくり
② 効率的で健全な行財政運営



議案
Pick Up

議案第126号

三豊市の 新たなまちづくり設計書

三豊市第2次総合計画基本構想及び
前期基本計画の策定について

三豊市新総合計画基本構想および後期基本計画が30年度をもって終了する。それに伴い、31年度から40年度までの10年間を計画期間とする、三豊市第2次総合計画基本構想および、31年度から35年度までの5年間を計画期間とする前期基本計画を策定することについて、議会の議決を求められたもの。

可決

補正

平成30年度補正予算

可決

○ 一般会計 223,718千円 増
34,499,949千円

○ 特別会計

国民健康保険事業特別会計
247千円 増
8,068,938千円

後期高齢者医療事業特別会計
111千円 増
1,033,275千円

介護保険事業特別会計
76,795千円 増
8,249,202千円

介護サービス事業特別会計
601千円 減
93,399千円

集落排水事業特別会計
32千円 増
195,623千円

浄化槽整備推進事業特別会計
22千円 増
224,924千円

議案
Pick Up

議案第123号

永康病院に 小児科を新設

三豊市病院事業の設置等に関する
条例の一部改正について

三豊市立永康病院の診療科目に新たに小児科を設置するため、条例の一部改正を提案されたもの。

可決

三豊市議会議員政治倫理委員会 審査報告

委員会設置に至った経緯

11月19日、一般市民から、三豊市議会宛「抗議文」が届いた。抗議文によると、金子辰男議員が、10月27日の夜、観音寺市内での会食後、代行運転を利用。その際に運転手に暴言を吐き、代金を支払わなかったとのこと。このことは、三豊市議会議員政治倫理条例第3条第1項第1号「市民全体の代表者として、その品位と名誉を損なうおそれのある行為をしないこと。」に違反の疑いがあるとし、11月22日付で各会派代表5人を請求議員とした三豊市議会議員政治倫理条例の規定に基づく「審査請求書」が議長宛てに提出された。これを受け、9人の委員をもって構成する「三豊市議会議員政治倫理委員会」を設置し、審査を行うこととなった。

委員会委員（9人）

委員長 坂口 晃一

副委員長 市川 洋介

委員 横山 強、三宅 静雄、瀧本 文子、
込山 文吉、西山 彰人、田中 達也、
高木 修

委員会の審査経過

第1回委員会 11月27日（火）

委員長・副委員長の選出。

第2回委員会 11月30日（金）

審査対象議員に弁明の機会を与える。「抗議文提出者」への聞き取り内容について議長から

の報告。対応を協議。

第3回委員会 12月4日（火）

審査結果報告書（案）の内容について確認し、議長に報告することについての承認を得る。

審査の結果

審査結果 条例第3条第1項第1号 該当

該当する事実

- ・自制心が働かなくなるほどの飲酒により、代行運転代金が未払いとなり、結果として警察から要請されるまで遅延したこと。
- ・飲酒による酩酊状態の中での行動が原因となり、一般市民から「抗議文」なるものが提出されてきたこと。

該当とする理由

以上の事実を含め、10月27日の行動が記述された「抗議文」が議会事務局へ郵送により届けられて以来、マスコミ各社による報道もあり、当該議員の行動が市民の知るところとなった。

これにより、三豊市議会の品位と名誉を傷つけたことは明らかである。

請求に対する提言等

- ・議会への出席自粛勧告5日間（12月7日～11日まで）
- ・議会の特別委員の辞任勧告
- ・議会役職（組合議員等）の辞任勧告

※詳細は、市議会ホームページでもご覧いただけます。

三豊市議会における綱紀粛正に関する決議

今般、三豊市議会議員と一般市民との間でトラブルが発生し、市民の皆様に変なご心配、ご迷惑をおかけしたことは、誠に遺憾であり、心よりおわび申し上げます。

このことは、私的行事の中での出来事であるが、市民全体の代表者としての市議会議員として、市民の皆様との信頼関係を大きく失うと同時に、三豊市民の品位と名誉を深く傷つけることとなった。この憂慮すべき事態を厳粛に受け止め、市民の信頼回復に全力で取り組まなければならない。

ここに三豊市議会議員は、二度とこのような不祥事が繰り返されることのないよう、公人としての責任を改めて自覚し、綱紀粛正に一層努め、一刻も早い信頼の回復に努めるものとする。

以上、決議する。

平成30年12月21日

三豊市議会

平成30年第4回(12月)定例会 審議結果

■全会一致の議案

議案名等	議決結果
平成30年度介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	原案可決
平成30年度介護サービス事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決
指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例の制定について	原案可決
市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について	原案可決
新市建設計画の変更について	原案可決
工事請負契約の締結について	原案可決
財産の取得について	原案可決
指定管理者の指定について(たくまシーマックス)	原案可決
平成30年度一般会計補正予算(第6号)	原案可決
平成30年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
平成30年度国民健康保険診療所事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
平成30年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
平成30年度介護保険事業特別会計補正予算(第4号)	原案可決
平成30年度介護サービス事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
平成30年度集落排水事業特別会計補正予算(第3号)	原案可決
平成30年度浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決
市職員の給与に関する条例の一部改正について	原案可決
市議会における綱紀粛正に関する決議案について	原案可決
議員派遣について	可決

■賛否が分かれた議案

議案名等	議員名																						議決結果
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	近藤武	高木修	湯口新	田中達也	浜口恭行	三木秀樹	西山彰人	水本真奈美	込山文吉	市川洋介	石井勢三	丸戸研二	詫間政司	金子辰男	瀧本文子	三宅静雄	岩田秀樹	坂口晃一	川北善伴	城中利文	為川員史	横山強	
平成30年度一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	●	○	○	○	○	○	原案可決 (賛20、反1)
市立学校条例及び市立幼稚園預かり保育条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	●	○	○	○	○	原案可決 (賛19、反2)
第2次総合計画基本構想及び前期基本計画の策定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛18、反3)
指定管理者の指定について(弥谷山ふれあいの森公園施設)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛16、反5)
指定管理者の指定について(父母ヶ浜海水浴場施設)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛17、反4)
指定管理者の指定について(文化会館)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛20、反1)
市議会議員の議員報酬、費用弁償等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛17、反4)
市特別職の職員で常勤のもの給与等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決 (賛20、反1)

※○：賛成 ●：反対 欠：欠席 退：退席 除：除斥
※議長は可否同数の場合のみ表決権があります。(議長 13番 詫間 政司)

12月	11月	10月
27日 三豊総合病院企業団議会 21日 議会運営委員会 19日 議会総務委員会 17日 議会民生常任委員会 14日 議会民生常任委員会 13日 議会民生常任委員会 12日 議会民生常任委員会 11日 議会民生常任委員会 7日 議会民生常任委員会 5日 議会民生常任委員会 4日 議会民生常任委員会 3日 議会民生常任委員会	30日 議会民生常任委員会 29日 議会民生常任委員会 27日 議会民生常任委員会 26日 議会民生常任委員会 20日 議会民生常任委員会 19日 議会民生常任委員会 15日 議会民生常任委員会 14日 議会民生常任委員会 13日 議会民生常任委員会 2日 議会民生常任委員会	29日 議会民生常任委員会 26日 議会民生常任委員会 24日 議会民生常任委員会 22日 議会民生常任委員会 18日 議会民生常任委員会 17日 議会民生常任委員会 11日 議会民生常任委員会

視察に来て
くださいました

10月24日 千葉県袖ヶ浦市議会 会派 創袖クラブ
バイオマス資源化センターみとよについて

11月1日 長崎県大村市議会 総務委員会
ごみ処理について(その方法と、現方式に至った経緯等)



横山 強 議員



施政方針の検証について

問 30年度の施政方針の成果、伴う予算計上は適正だったのか、伺う。

答 各施策については、決して単年度で成果が見えるものばかりではないが、新しい三豊のまちづくりの一步を踏み出し始めた実感はある。一方で議員ご指摘のとおり、水産業へのICT技術の導入、薬用作物の栽培、6次産業化、火葬場の廃止、造船跡地でのにぎわい創出等、進捗が芳しくない。これらについては、事業内容を検証し、次年度への取り組みにつなげる。予算計上が適正かについては、限られた財源を適切に配分したが、執行段階において再度効果検証を行う中で、必要な見直しを行うものもある。



▲ 30年度施政方針

問 30年度の成果の検証を踏まえ、31年度に向けた施政方針案と

伴う予算計上案等を伺う。

答 施政方針で述べた施策については、十分な効果検証を行ったうえで、31年度の施策に的確に反映させ、より財政効率の向上となるよう、議会で十分審議をいただきながら、施策の水準を高めていきたい。

政治活動の看板類の設置について

問 政治活動用看板の設置届の審査、申請場所へ赴き確認等、届け出後、選挙管理委員会の取り組みを伺う。

答 申請時に地図・図面で設置場所を明示していただき、設置看板は市民が見とれて事故が起きるような存在は確認していない。仁尾中筋地区の看板は、現地調査し、公共部分へのはみ出し等、場所、立て札表示内容は適正であることを確認している。

通報等について

問 市民からの選挙後のあらゆる通報等への選挙管理委員会の対応を伺う。

答 誤った情報は、議員各位に多大な影響を及ぼすと認識している。選挙管理委員会は、現行の警察への情報提供の方法について、問題を今一度検証し、改善すべき点を速やかに改めたい。

浜口 恭行 議員



自治体戦略2040構想研究会の報告について

問 高齢化がピークを迎える2040年ごろの自治体のあり方を検討した総務省の「自治体戦略2040構想研究会」の報告が公表されているが、特に地域おこし協力隊などの外部人材の登用について、本市の考えを聞きたい。

答 外部人材の登用については、これまでの活用方法からさらに拡大し、市の重点プロジェクトなどにおいても、地域おこし協力隊を採用し、専門的人材の活用を図っていきたくと考えている。

教職員の働き方改革と部活動支援などについて

問 三豊市版「教職員の働き方改革プラン」が策定され、教員以外の専門スタッフの配置を進め、今後は「チームとしての学校」の総合力、教育力を最大化できるような体制を目指していくのか、当局の取り組みを聞く。

答 本市では教師の負担軽減を図る環境整備として、専門スタッフ、外部人材の配置を推進している。

今後とも教員以外の専門スタッフを各校の実態や要望に応じて適切に配置、増員していきたい。

問 「家庭訪問」を取りやめる学校が出ているが、子どもの家庭環境を見るのは重要なことなのではないか。

答 子どもの教育に必要なもので安易に削減しないよう留意する必要があるが、家庭訪問もその一つと捉えている。

問 「部活動指導員」が顧問教諭と同じような権限が与えられるよう制度化されている。増員するべきでは。

答 生徒が好きなスポーツに取り組めるよう、スポーツ少年団などの外郭団体とも連携を図り、地域クラブの活性化、外部指導者を「部活動指導員」として迎えるなど、地域の人材を部活動に活用することも考えていきたい。



▲ 中学校の部活動支援を

込山文吉 議員



スポーツ振興について

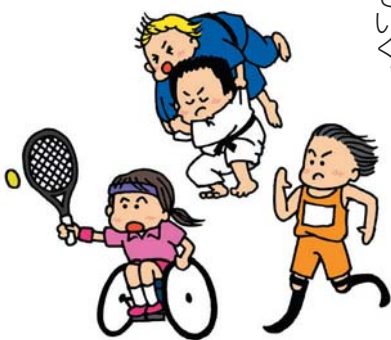
問 政府は2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会参加国・地域との、人的・経済的交流を図る地方公共団体をホストタウンとし、全国各地に広げる推進に取り組んでいる。スポーツを通じた観光施策の具体化のためにも、また地域の独自性の高いスポーツツーリズムの開発のためにも、ホストタウン制度を活用し、交流人口の拡大に取り組みべきではないかと考えるが、市長の考えを聞く。

答 大会を契機とした交流が継続的に実施されることで、スポーツ、青少年育成など、さまざまな分野において交流を展開していくことが期待できる。本市では事後交流型によるホストタウン登録を目指して準備を進めており、現在、宿泊施設等の登録要件から、琴平町との自治体連携により、登録申請を予定している。登録申請の最終申込期限が平成31年1月末となっており、それまでに相手国と交渉し、事業内容等を決定していく。

問 三豊市のグラウンドデザイン策定が動き出した。スポーツ推進計

画策定に向け、各団体と競技向上環境づくり、方針などの協議を現在進めていると聞く。グラウンドデザインに反映していくべきではないか。生涯学習推進計画ではトップアスリート育成を推進事業としている。

答 高度な施設整備には課題も多々、アスリート育成の観点からも、各助成事業などを活用しながら、既存のグラウンドや施設をよりよい環境で提供できるように、今後整備や計画に努めていく。スポーツ施設の利活用の全体計画については、来年度策定予定である三豊市スポーツ推進計画を策定していく中で、市民アンケートを募り、その結果を踏まえ、施設の方向性などを協議、検討していく。また、環境整備については、グラウンドデザインとスポーツ施設の適正配置の中で、国などの交付金、整備補助が活用できるよう、整備動向を注視しつつ、検討していく。



西山彰人 議員



市民が主導するイベント等に対する市のかかりについて

問 市民が「三豊は一つ」、そんな思いで企画する市民運動会やマラソン、祭りの事務局を市が担う気はないか。市民の力だけでは、事務局の維持は難しいと思うが。

答 イベント、祭り等々については、側面から応援し、市民の皆さんからお話を聞くというところからスタートしたい。



▲「One MITOYO」
一つの三豊市を目指して

災害時託児所への対応について

問 市長は、市の防災訓練時のあいつつで、南海トラフ地震は

いつ起きるかわからないと発言した。耐震ができていない託児所が託児地区の災害対策本部になるが、壊れた時の対応は。

答 新耐震基準を満たしていない託児所は、託児地区の災害対策本部を設置する場所として適当であるとは言い難い。できるだけ早く再配置を進め、周辺の公共施設に一時的に機能移転することで、利用者や職員の安全を確保する。

三豊市の労働政策について

問 「ブラック企業が増えている。そのため、市内の企業に対し指導助言をする気はないか」との問いに、「労働基準局が指導することになっていくので市はしない」との答えであったが、市の職員に対しては、労働基準局の監督権限が市長にある。そのため管理職教育はしているのか。また、保育所の待機児童が増えているが、育児休業の利用が進めば待機児童も減ると思うが、現状はどうなっているのか。

答 管理職に対する労働基準法の研修はできていない。育児休業を取得している企業はあるが、三豊市同様、男性の取得率は少なくなっている。



▲東京大学大学院松尾研究室・香川高専・市との合意書締結式にて

石井 勢三 議員



三豊市知名度向上のための一番となる柱となるものは何かを問う

問 三豊市が全国に向けてピールアールしていく中で、今後の施策として一番となる柱が必要と考えられる。それは、何かを問う。

答 行政の場合、総合的に施策を進めていく必要があるが、三豊市としてはA-1の取り組みが挙げられる。A-1技術はあらゆる場面で今後、活用される可能性を秘める。日本の第一人者である東京大学大学院の松尾豊研究室サテライトが、来春、市内に設置される。これを機に、先進モデルとなり全国にピールアールしたい。

鳥インフルエンザ予防について

問 三豊市の養鶏は、大きな産業の一つである。いつ、発生するかもしれない鳥インフルエンザ予防に対するの施策を問う。

答 発生の予防、早期の発見、通報に重点を置いた農場段階での家畜防疫体制の強化のため、農場への病原体侵入防止の消毒など、飼養衛生管理基準の遵守を家畜保健衛生所と連携して指導し、感染予防に努めている。

三豊市公共施設再配置計画について

問 再配置計画の中で高瀬給食センターの無償譲渡、豊中給食センターの売却が、取り下げとなったが、今後の計画を問う。

答 現在のところ、政策的な公共施設処分のガイドラインは確立していないが、未利用財産の処分が市民にとって利益につながるようスピード感をもって進めていく。

三豊市体育祭について

問 東京オリンピックを迎えるにあたり、市内で三豊市体育祭開催の希望を各地で聞く。市の考えを問う。

答 三豊市体育協会が中心となり、七つの町体育協会や、陸上部、野球部など26の専門部各関係団体で協議を進めている中で、市民の企画力を全力で支援していきたいと考えている。

近藤 武 議員



子育て支援について

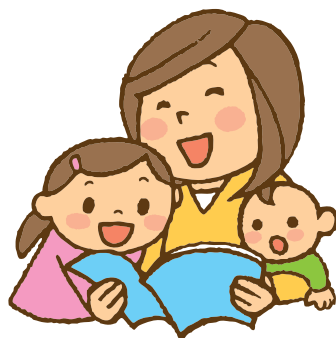
問 三豊市では、年間何件の婚姻がなされ、また何件ほど離婚しているのか。そのうち母子家庭の世帯数は何件ほどか。ひとり親家庭の貧困率は高いことから、離婚後の養育費の支払いに関して、どの程度情報を共有し、どのような支援がなされているのか。

答 29年度に市民課で受理した婚姻届は226件、離婚届は94件で、平成30年11月末現在の児童扶養手当受給資格世帯は62件である。養育費の支払い状況の把握については、児童扶養手当の現況届の際に申告している。母子家庭552世帯のうち140世帯が養育費をもらっている。相談には、子育て支援課の相談員が対応し、関係機関を紹介している。

問 養育費は、生活の安定と子どもへの健やかな成長に必要な不可欠なものであり、諸外国では行政が主体となり養育費確保支援を当たり前のようになっている。明石市での新しい取り組みの養育費立て替えパイロット事業では、官民連携となり、

養育費保証契約を締結し、ひとり親家庭にさらなる子ども養育支援をしているが三豊市としてできないか。

答 三豊市においても各種施策に取り組んできた。今後とも先進自治体を参考にしながら、市民に望まれる施策を立案し、事業化できるように取り組んでいく。



その他の質問

- 三豊市の使い捨てプラスチックを削減、使用しない社会について
- 三豊市の自然環境、コウノトリの育成環境について
- 教育行政、持続可能な開発のための教育（ESD）について
- 瀬戸内国際芸術祭、次回来場者数増加に向けて三豊市の取り組みについて

丸戸 研二 議員



AIの拠点整備について

問 どこに拠点を整備するのか。

答 財田庁舎2階部分を活用し、東京大学大学院松尾研究室のサテライト設置を予定している。



▲ AIの拠点整備が行われる財田支所

問 施策展開のスケジュールと今後の見通しは。

答 拠点施設は平成31年4月のオープンを予定しており、参画企業などによる組織を設立し、運営を行うこととしている。既に、市内外の企業から参画の意向を受けている。

また、31年度から、高校生、大学生、企業研究者、社会人などを対象に、基礎講座と応用講座を開催する予定としている。

問 小学校高学年から中学生が人工知能に触れられる機会を持たないか。

答 AI教室やAIイベントなどを開催し、子どもたちが体験できる機会づくりに取り組む。

待機児童の解消について

問 議員個人として、保育現場の状況を視察させていただいた。

先生は、神経を集中して子どもたちに向き合っている。現状、一人の保育士が担当する子どもの数はゼロ歳児が3人、1歳児が6人、2歳児が6人である。この運用に課題、問題はないか。

答 保育スタッフの業務は非常に厳しい環境にあると認識している。可能な限り子どもたちを預かり、最大限の努力を職員にお願いしている状況である。

問 先生が働きやすい職場には、最終的には人材が集まってくる。保育スタッフに目途が立てば、より質の高い保育が確保される。最先端機器による保育の支援システム導入ができないか。モデル園を指定し、早急に検討してはどうか。

答 保育士とも十分相談し、取り組めるところから導入する検討を行う。

その他の質問

○合併特例債の運用について

田中 達也 議員



みとよクエスト 〜冬を攻略編〜について

問 取り組みの目的と、期待される効果について。

答 三豊へ来ていただいたお客様の市内滞在時間を増やし、消費を拡大することを目的に実施する。

問 アプリを活用することとあるが、どのようなものか。

答 香川高専期間キャンパスの学生とともに開発中。ウェブアプリを採用。市内のスポットを検索し、めぐり、写真を投稿。自動的にみとよクエストのツイッターにアップされ、個人のSNSにも投稿が可能。スポットのクリア数に応じてプレゼントに応募できる。



▲香川高専と共同開発したアプリ

問 本取り組みのターゲットと告知手法は。

答 市内、県内、近県の主に若い世代。今年5月に父母ヶ浜で行った観光調査では、20歳から30歳

代が半数以上を占めていたため、若い世代を取り込むため、アプリやSNSを活用する。三豊を周遊する際の交通手段がほぼ車であることから、ラジオによる周知を主体に実施する。

問 パートナーショップ募集の状況について。

答 11月末現在で52の事業者から申し込みがあった。

空き家バンク制度について

問 農地付き空き家への対応について、6月定例議会において、担当部局と協議するとの答弁があったが、その後の経過を聞く。

答 本市の状況に合った空き家に付随する農地の下限面積の見直しなど、農地の荒廃防止を考慮するとともに、先進地などへも足を運び、農地法を遵守しながら、県の指導を受けて検証を進める。

問 制度をより活発に利用しているため、宅建業者との連携が必要と考える。現在の状況と、今後の対応について聞く。

答 物件登録の相談窓口として、空き家バンク登録への勧奨も行っていただいている。宅建業界のご意見も賜りながら、物件登録者、利用者、宅建業者、自治体それぞれにとってメリットのある制度として、活用されるよう、よりよい運営に努めたい。

高木 修 議員



市役所職員の人材育成について

問 まず初めに、市政推進の上で重要な役割を担っている、市職員の皆さまの人材育成方針についてお聞かせいただきたい。次に、その教育訓練体系について伺う。

答 初めに、職員の人材育成に関しては、平成18年に人材育成方針を策定している。また平成28年には、より効果的で実効性の高い人材育成の取り組みを進めるため、人材育成方針を改定した。

方針に掲げる目指す職員像は、①プロフェッショナルな職員②チャレンジ精神のある職員③クリエイティブな職員④三豊愛に満ちた職員となっている。



市役所に食堂設置を

問 市民の利便向上と、職員福祉の向上を図るため、市役所内に食堂を設置したらいかがか。

答 現状、食堂スペースの確保は難しいが、労働環境の改善、職員の福利厚生観点から食堂は重要なものと考えている。本庁舎周辺ブランドデザイン作成の過程で検討していきたい。

旧高瀬町公民館調理実習室の復活について

問 旧高瀬町公民館の閉館以降、付随していた調理実習室がなくなり、食生活改善推進協議会等の団体の活動が不自由している。公民館跡地再開発計画の中で、ぜひ復活させていただきたい。

答 食改の皆さまには、活発な活動を行っていただく中で、旧高瀬町公民館の調理実習室を閉鎖したことをご不便をおかけしている。限られた財源のなかでの課題解決となることにご理解をいただきたいが、現在策定が進められている本庁舎ブランドデザインの中で、広く議会や市民の皆さまの意見を伺いながら取り組んでいきたい。

坂口 晃一 議員



市役所の組織改革

問 市役所の機能低下の意識はあるか。

答 市長就任後感じた部分でもあり、部長会議の協議、情報の共有、政策決定の協議、組織の縦割り弊害の解消、市民第一を基本に行政組織、市民対応等を行う。

問 未来型の三豊市の創設での特別債の使い方は。

答 特別債の延長により、インフラ整備を計画的に活用する。

問 インフラ整備は働く場所の企業の誘致と公共施設の利活用が重要であるが。

答 まちづくりのため、環境、道路等の整備を行う企業誘致は地域活性化のため進める。公共施設の利活用については財産処分を決定、有効活用を図る。

市立病院の建設について

問 永康病院が赤字になった原因は。

答 医師の不足、確保の対応が十分でなかったため、入院・外来患者が減少した。また、職員の意識改革、能力を高める努力が不足。市民や外部から患者が来るような広報活動が必要。

問 人口減少の中で2カ所の市立病院は必要か。統合の考え方は。

答 二つの病院は独自の経営を継続していく方向である。

問 場所はどこか。その理由は。

答 適切な時期に提案したい。

農業問題

問 三豊市の基幹産業である農業振興計画について。

答 ICT、AI等先端技術の導入、農作業の省力化、効率化、農業データの収集・分析を進め、農業収益の向上を目指す。

問 人口減少、農地荒廃、農地価格の暴落、有害鳥獣、災害多発の対策は。

答 機械の共同利用、作業の共同化による経営効率化を図り、集落営農組織の支援を実施している。耕作放棄地は30年度2,177ヘクタール。

問 農地法、農振法等の規制緩和の取り組み。

答 時代に合った法整備について香川県に要望を継続する。



▲農地の有効活用

水本真奈美 議員



不育症治療支援について

問 不育症は2回以上の流産、死産や生後1週間以内の新生児死亡を繰り返す疾患である。相談窓口と治療費助成の充実について。

答 30年度から香川県不妊・不育症相談センターが電話やメール相談のほか、来所での女性産婦人科医師や心理カウンセラーによる専門相談を始めており、本市はホームページや広報紙などで周知啓発に努める。また県では、不育症治療費助成制度を開始しているが、不育症の治療は費用も高額となることから、本市独自の助成制度を医療機関等と協議、検討している。

風疹流行対策について

問 国立感染症研究所は平成30年11月25日時点で累計風疹患者が2,313人、昨年の25倍近くにのぼり、過去最高と発表。感染防止対策の現状を伺う。

答 今回の流行は予防接種制度の变更でワクチンの定期接種を十分に受けられず、免疫を持たない30代から50代の男性に患者が多いこ

とが感染拡大の要因とされている。県内の風疹報告件数は6件である。感染予防方法の周知徹底は重要と考え、広報みとよ11月号に風疹への注意喚起を掲載した。

問 妊婦が初期に感染すると胎児に「先天性風疹症候群」を発生する恐れがあることから、特に妊婦の配偶者に抗体検査ならびにワクチン接種助成の考えを伺う。

答 妊婦は妊婦一般健康診査で抗体検査を行っている。妊娠中は、生ワクチン接種ができないことから、配偶者、家族の感染予防が重要である。県では平成26年8月から該当者を対象に無料で抗体検査を実施しているが、ワクチン接種助成については、国の動向を見ながら医療機関との協議を進めていく。



その他の質問

○新婚世帯、ひとり親世帯への家賃補助について

○高齢者肺炎球菌ワクチン接種事業について

瀧本文子 議員



スポーツ・文化芸術・文化財の基本計画の策定について

問 生活をつるおい豊かなものとし、活力をもたらす生涯学習活動は、多様化・高度化している。社会変化の中で行政として進めるべき明確な方向性が求められている。スポーツ・文化芸術・文化財の基本計画の策定が必要ではないか。

答 各分野の具体策を盛り込んだ基本計画は非常に重要である。今後はワークショップ開催など市民団体等の意見を聞きながら早急に取り組みたい。



豊中幼稚園の分園化について

問 幼稚園の望ましい規模は80人〜120人と言われる中、豊中幼

稚園(280人)の大規模化により子どもたちに与える影響が、心配されてきた。2年前の一般質問の答弁で「望ましい状況とは考えていない。学校統廃合整備計画の中で今後について新たに考えていく」と述べている。小学校統廃合の時期と合わせて、分園化の議論をぜひお願いしたい。また3歳から「全入」の豊中幼稚園は、保護者に選択の機会を保證する必要からも、5歳までの保育所機能をもつ認定こども園等見直しをお願いしたい。

答 学校統廃合の協議の時期に差しかかり、保護者・地域の方々の意見を聞きながら、合意形成を図り進めていきたい。その中で幼稚園の分園化について、意見を聞いていく必要があると考える。保育所機能の見直しについて、認定こども園のあり方も含め、関係者と協議を重ねていきたい。

学校図書館司書の専任配置について

問 専任配置に向け、引き続き司書の増員をお願いしたい。

答 現在11人の配置でスキルアップ研修を進め、調べ学習など教育現場での取り組みを進めている。人材と予算確保に努力する。

※ワークショップ…参加者が自主的に体験する講習会・研究集会

※認定こども園…教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の機能を併せ持っている施設

湯口 新議員



問い合わせ業務・受付業務の改善について

問 Aー技術の実験的導入などで職員同士の情報共有の迅速化や時代に合わせた問い合わせ対応、受付業務の改善について伺う。

答 最新技術である業務効率化・自動化の導入等、検証、検討を進める。Aー技術の拠点を旨指し、三豊オリジナルの先進モデルを作り出したい。

健康の面からのまちづくりについて

問 若い世代への医療費負担の軽減や高齢者が生きがいを持つための生活を送るためにも、平均寿命の延びとともに健康寿命を延ばす必要性がある。そのためには今後、健康に無関心な市民でも健康になれるまちづくりが必要である。キーワードは『自然に歩いてしまう、歩かされてしまうまちづくり』だと考える。まずはこれまでにウォーキングコースなど市民が歩くための空間の整備を行ってきたかを聞く。

答 歩けるまちづくりは取り組んでいくべきかと思っている。新たなウォーキングコースの整備は記憶にないがマップやサイクリングマップなどは作製した。里山整備など市民

力での取り組みもあるので、連携しながら、マップの作製や整備の部分などを協議・検討していきたい。

問 運動することでインセンティブがもらえるマイチャレかがわという県の健康ポイント制度を三豊市としてどう取り組んでいくのか。

答 健康無関心層に関心を持ってもらう一つのきっかけづくりとして、特典を受けるメリットがあるような活動を県と共に取り組んでいきたい。

図書館の利便性拡大について

問 開館時間の延長など利便性の拡大は。

答 平成30年3月に策定された今後10年間の三豊市図書館基本計画に基づき、開館時間の拡大や各館ごとの休館日の設定など利便性の拡大について、来年度以降具体的に検討・試行を重ねて実施していく。



▲三豊市図書館基本計画

その他の質問

○カーボンマネジメント事業に対する市の考え方について

市川 洋介 議員



雇用、勤労者、定住促進対策など居住対策について

問 人口減少、少子高齢化、経済再生、財政健全化のもとで、制約要因となる、いわゆる雇用、勤労者対策、定住促進対策、移住対策について、政府が外国人材を幅広く受け入れ、外国人が円滑に共生できるように取り組む方針を出しているが、市はどのような受け入れ環境整備を考えているのか。既存住宅ストックの活用

に空き家市営住宅がどのように活用されているのか。住生活基本法に、住生活の確保と向上の促進のため、基本的な施策を定め、住生活基本計画が見直されて、市営住宅はセーフティネットでどんな役割を持っているのか。市営住宅も外国人を含めた労働者の移住者の移住用として、民間企業に貸すことができないのか。三豊市はこれから高齢者が増え、低所得者、外国人労働者が増え、住宅施策を考えないといけない。市民が、住宅の相談をする内容によって、田園都市推進課、住宅課、福祉課、建築課と全部が絡んでいるということと、住環境はなるべくひとつの課プロジェクトがあってもいいと思われるが、この点について伺う。

答 市内に住む外国人市民、日本人市民が互いに違いを認め合い支え合う、多文化共生のまちづくりを推進し、市民の意識が向上する施策を検討するとともに、外国人受け入れ支援施策についても研究していきたい。市営住宅については、必要確保供給戸数を維持していくことを前提に、各団地の建て替え、用途廃止、維持管理をし、有効な活用を考えている。平成29年10月に新たな住宅セーフティネット制度が創設され、高齢者、低所得者、子育て世帯、障がい者等の住宅配慮者のため、住宅の登録制度や登録された住宅の改修入居への支援措置を行うことになった。

住宅施策

を所管する部署が分かれており、施策が縦割りで、円滑な運営ができていないというご指摘は、真摯に受け止める。十分検証し、今後検討してまいります。



その他の質問

○Aー、ICTの活用について
○宝山湖、緑ヶ丘等のサッカー場、グラウンドについて
○詫間港のジブクレーンについて

岩田 秀樹 議員



個人所有のブロック塀の撤去、フェンス等の設置補助制度について

問 大阪北部地震における、学校や除去工事が実施されている。通学路の安全確保対策をどう考えているのか。国は公共施設のみを対応、県は通学路について検討すると述べている。

答 市内全域を対象に、道路に面するブロック塀等の撤去実施を進めるため「危険ブロック塀等の補助」、「フェンスの設置補助」を行うことも必要ではないか。どう考えているのか。
答 現在、不適法、老朽化として危険と判断された学校等のブロック塀は速やかに解体撤去工事の対応をとり改善を進めている。個人所有の危険なブロック塀の解



▶撤去工事の進んだ大見小学校のブロック塀

消推進には、撤去工事費等の補助が効果的と考えている。県は新年度から市や町が行う撤去補助事業に対し支援を実施したいとのことで、現在補助制度の要綱、予算等について県と調整中である。

公共施設の長寿命化に基づき、新築施設の維持管理について

問 長寿命化計画に基づき点検修理、大規模修理が求められる。維持管理費は増大するが、更新費は大幅に削減する。築15年〜20年で修理が求められる。修理の起案、予算計上はどこが行っているのか。

答 現在は、施設所管課で、事後保全型の対応を行っている。また、施設の長寿命化計画について、市としての統一した基準はない。現在、庁内組織の公共施設再配置審議会研究部会において、市の統一基準となる三豊市公共施設長寿命化指針の作成を進めている。

策定中の指針では、予防保全の観点を取り入れ、点検や大規模改修等を計画的に行い、LCCの削減に努める。
 事務系職員でも点検が可能となるよう公共施設点検マニュアルの作成を長寿命化指針と同時に、今年度末の策定を目指し進めている。

三木 秀樹 議員



建設を凍結した北部学校給食センターをなぜ、重点施策で建設するのか

問 平成26年に、①厳しい財政と少子化による給食数の減少、②既存を活かし、新たな事業費抑制の検討により、北部学校給食センター建設計画は「凍結」した。当時、詫間町を中心に自校方式の「良」から学校給食を残せとの熱い声が多かったのもその背景にあると思うが、なぜ、



▲給食調理場の様子

来期から5年間の重点施策に同センターの建設が入るのか。また、「凍結」以後各給食調理場の改善ができていないと聞くが、なぜ行わないのか。
答 指摘の理由で「再検討」となっていたが、各施設の経年劣化、学校給食の充実等から新たに北部学校給食センター整備の方針を出した。調理場の修繕等は、現場の声を聞き実施する。

臨時・非常勤職員の処遇が変わる会計年度任用職員制度の進捗を聞く

問 市もそうだが、臨時・非常勤職員の働き無くして行政サービスが維持できないほど彼ら、彼女らは重要な担い手にもかかわらず劣悪な処遇だ。同制度は、ばらばらであった各自治体の独自判断を法改正で統一し、重要な担い手として処遇すべきと国が創り、2年後の実施に向け準備を進めている。

国は、その責務、経験則を考慮した「給料表」およびその昇給を、期末手当の支給等を実施するよう指導しているが、市の考えはどうか。

答 指摘の通り、職種により行政職の運用および、再度の任用での継続になれば昇給も行うことになる。期末手当は今法改正の趣旨から整備する。

問 現行の賃金および権利が下がるなどの「不利益の変更」は法上からもできないが。

答 現行の基準で再度の任用、また同制度に採用されるのだから「不利益にならない様」指導もあり、努力する。

その他の質問

○発達障害児童生徒への支援策について

委員会では担当する分野について研究するために、他の先進的な自治体の取り組みを調査し、市政の発展に反映できるよう努めています。視察の研修内容をご報告します。

議会運営委員会

10月29日(月)～10月31日(水)

議会議務事業評価について 議会報告会について

視察先 東京都多摩市

決算審査において、4事業を抽出して評価している。対象事業を絞り込むことにより、議会議務事業評価がどのように施策に反映されたかを確認している。

議会議務報告会は、毎年度3会場から5会場で実施している。説明や質疑主体ではなく、参加者との意見交換主体である。

議会のICT化について

視察先 東京都立川市

インターネット上のサーバーであるクラウドに掲載された情報をタブレット端末で閲覧し、情報共有を行っている。

しかし、紙との併用であり、ペーパーレス化には課題が残っている。

本会議場にはモニターが導入されており、前後から撮影を行いリアルタイムで放映している。委員会についても録画中継を行っている。

市民との意見交換会について

視察先 神奈川県藤沢市

平成24年に「市民の声を聞く会」平成25年、26年は、「議会報告会・意見交換会」を行っていたが、若い人の参加が少ない、参加者が固定化してしまっただけで、市民と議会の間で対立ムードが生まれた、苦情が多く建設的な議論になりにくかったなどの課題に直面し、専門家のアドバイスを受け、ワールドカフェ方式を採用した。

これまでに3回開催し、カフェトークふじさわでの意見を取りまとめ、市長に対し提言書を提出している。



▲藤沢市議会

市立病院建設調査特別委員会

11月20日(火)～21日(水)

地域中核病院として住民に信頼される病院

視察先 熊本県公立多良木病院

同病院は、産婦人科、小児科含む16の診療科で、一般救急99床、緩和ケア10床、地域包括51床と160床で急性期から回復期・在宅医療まで一貫した地域医療に密接にかかわる地域中核病院である。看護施設基準は、一般病床が10対1、緩和病床は7対1である。

医師確保は、当病院で地域医療研修等における地域包括医療、へき地医療を実践する医師の最高の養成所とする。

して取り組まれて成果をあげている。

また、地域住民との定期交流(出前講座、座談会等を開催)で、地域医療の現状を知ってもらうことを重視している。

病院職員(医師、看護師)のスキルアップの取り組み(毎週水曜日10分間の目標達成の突き合わせ等)も、情報の共有化と経営意識の向上を目指し日々研鑽している。

地域完結型医療を目指し、接遇力のアップを目指す

視察先 岡山県瀬戸内市市民病院

5年間かけて平成28年に新病院に移った同病院は、一般急性期64床、地域包括ケア16床、療養30床と110床で看護施設基準は10対1の病院である。

同病院は、人口減少が進む中、市内の開業医、福祉施設との連携重視が図られ、救急含めて入院患者は、退院後市内の主治医の病院へ帰すことで信頼が高まり、当病院への紹介入院患者の8割が、市内開業医、福祉・介護施設からの紹介であると聞く。

病院文化を変えるために、職員の「接遇力の強化」を重視し、各種研修(年2回の宿泊研修)をはじめ、患者からの満足度実態調査もを行っている。



▲多良木病院

12月定例会では、各委員会に議案が付託され、その審査の経過や結果は、本会議で報告されました。委員会での審査内容を掲載します。

委員会審査



総務常任委員会

12月13日開催の総務常任委員会には4議案が付託され審査した。

主な質疑と答弁

30年度一般会計補正予算関係部分

問 防犯カメラの更新について、不審者の問題もあることから、小中、幼保など、全てに整備する計画はないのか。

答 今回は、県警が既に設置している市内28カ所の更新事業で、毎年7基から8基を4年間かけて行うものである。

問 若者定住対策について、補助対象者が自治会に加入した場合、補助率をアップするなどの検討ができないか。

答 受け入れ側の自治会等の意向も踏まえ、可能性を検討したい。

問 A-1サテライトについて、講座の対象は誰か。広く募集を行い、高校生、大学生などにも呼びかけを行いたい。

指定管理者の指定

◎三豊市弥谷山ふれあいの森公園施設

◎三豊市父母ヶ浜海水浴場施設

問 モニタリングを確実にを行う必要があると思うがどう考えているのか。



▲弥谷山ふれあいの森公園

以上、各議案とも慎重な審査により原案どおり、可決した。

市民建設常任委員会

12月14日開催の市民建設常任委員会には1議案が付託され審査した。

主な質疑と答弁

30年度一般会計補正予算関係部分

問 道路橋梁新設改良において、池之宮橋の7千万円が減額になったが、合計でいくら減額になったのか。池之宮橋だけの減額の金額か。

答 下部工や上部工を合わせるとその金額になる。本年度施工で計画したが、国からの交付金の予算が付かなかったため、次年度以降で予算要望を行う。

問 幅員など、現況から状況はどう変わるのか。

答 池之宮橋は、幅員6mでの計画で、延長が約20mとなっている。現在下部工は発注済みで約5千万円、上部工が来年度として、約8千万円。その8千万円の中には、高瀬川の両サイドの取り合わせ護岸も含んでいる。

全体工事費としては1億5千万円程度と考えているが、両側の取り合わせ護岸も掘削の結果延長が伸びることも考えられる。



▲高瀬町池之宮橋周辺

以上、当議案は慎重な審査により原案どおり、可決した。

教育民生常任委員会

12月17日開催の教育民生常任委員会には10議案が付託され審査した。

主な質疑と答弁

30年度一般会計補正予算関係部分

問 小学校統合により、4月から荘内半島はスクールバス4台が走るようになる。それぞれ地元から校区ごとで運行の要望があったのか。将来的な運行統合についての考えは。

答 校区ごとの運行は、地元要望によるものである。また地区内のスクールバス統合については、地元説明会を行ったが、すぐには難しい状況である。今後、統合等運行台数の削減に努めていきたい。

指定管理者の指定

問 三豊市文化会館の指定管理者の公募要項では、モニタリングは事業者のセルフモニタリングを行うこととなっている。今後新たな指針策定にあたり、市独自のモニタリングを取り入れ、2施設（たくまシーマックスを含む）について新指針を導入する考えはあるのか。



▲三豊市文化会館（マリンウェーブ）

以上、各議案とも慎重な審査により原案どおり、可決した。

三豊市第2次総合計画調査特別委員会

12月12日開催の三豊市第2次総合計画調査特別委員会には1議案が付託され審査した。平成31年度を初年度とし、向こう10年間の基本構想と施策の大綱を明らかにした。

主な質疑と答弁

第2次総合計画基本構想及び前期基本計画の策定

市民が可能性を切り開くまちづくり

問 市民や各種団体、自治会・地域コミュニティ組織に、どのようなサポートを行い、地域に寄り添った施策を進めるのか。

答 市民、各種団体、自治会、地域コミュニティ組織と協力し、小さな拠点を中心とした多極ネットワーク型による、持続する三豊市の構築に取り組む。

人口目標について

問 人口を減少させないという考えだが、定住人口、交流人口、関係人口の考え方を示せ。

答 10年後の人口目標を6万3千500人プラスとし、人口減少を見込まない目標としている。達成可能な目標の設置は、縮小のまちづくりを進めることと同じであり、より高い目標に向けて挑戦することが、活力ある地域づくりにつながると考えている。

学校再編について

問 小学校の児童数が120人を切れば統合の協議に入るのか。

答 今後の児童数や施設の老朽化を考慮しつつ、地域、保護者などに理解を得ながら、合意形成に努める。

以上、当議案は慎重な審査により原案どおり、可決した。

「市政に対する要請書」回答

平成30年11月29日に山下市長から回答がありましたのでご報告いたします。

1. 人口減少対策

● 待機児童の解消

「子どもを産み育てやすいまち」を目指し、待機児童ゼロの緊急課題を保育の受け皿確保・公立施設の活用・保育人材の確保を基本に対策を講じていく。

● 新婚世帯への住宅新築又は家賃への支援拡充

新婚世帯に対する支援策を強化し新生活に係る費用を補助することで経済負担の軽減を行い、移住定住を促す。最優先施策として実施検討していく。

● 空き家リフォーム事業の拡充

移住定住の促進と、空き家問題の解消、地域経済の活性化を目的に空き家バンクリフォーム・地域経済活性化事業として、拡充をしながら事業展開してきた。利用者にとって有効な事業になるよう検討を重ねていく。

2. 防災対策

● 実効性の高い防災訓練の実施

各種ハザードマップによる危険個所の把握に努め対応を図る。画一的な防災訓練でなく、体験型の訓練など効果的な訓練も取り入れていく。

● 自主防災組織の編成・強化

自治会未加入世帯により自治会単位での組織編成が困難な自治会もあり、より大きな校区での編成も進めている。2023年度までに組織率100%を目標に、育成強化を図っていく。

3. 農業振興の拡充

● 有害鳥獣対策

総合的な対策を推進している。今後は環境づくりと捕獲効率の向上に向け研修会開催や、狩猟者の捕獲後

の負担軽減に向けた施策等について検討を進める。

ICT等を活用した捕獲効率向上策について香川高専、東京大学大学院松尾研究室と連携して進めていく。

● 耕作放棄地

耕作放棄地を解消するため、国・県の事業を活用するとともに、中山間地域等直接支払制度の活用や農地機構を通じて担い手への農地集積を進める。

また、新たな作物の栽培について検討していく。

4. 市道整備計画の策定

第2次総合計画や都市計画マスタープラン等の各種計画の進捗状況や内容を見極めながら、市道整備計画の策定に取り組んでいく。

5. 保育士等の処遇改善

● 保育士の待遇改善

待機児童解消に向けては、保育士等の人材確保が急務である。臨時職員の方々も長く勤務いただけるよう処遇改善及び職場環境の向上に努める。

● 放課後児童クラブ指導員の待遇改善

平成27年度から「放課後児童支援員」の資格が創設された。県知事が行う研修を修了した臨時職員について処遇改善を行う。



▲山下市長から要請書回答を受け取る正副議長

学校紹介

四国学院大学 香川西高等学校

キリスト教の精神に 基づく教育

本校は3年前、創立70年の歴史と伝統を誇る香川西高校に、キリスト教信仰による先進的な教育を行う四国学院大学が融合し、新しく四国学院大学香川西高校として生まれ変わりました



▲男子サッカー部、女子駅伝 壮行会

た。スクールモットーである“Vos estis sal terrae”（汝らは地の塩である）のもと、勉学や課外活動を通して互いに尊重し合い、自分自身はもちろんのこと他の人たちを敬い、それぞれが社会で輝くための豊かな人間形成を目指しています。学科は、普通科、商業

科、衛生看護科の3学科があり、普通科ではさらに3コースに分かれ、有名大学への進学やスポーツでの活躍などそれぞれが自分の夢を確実な未来に変えるべく特色ある学習に取り組んで

います。特進・看護科棟にはWi-Fi環境が完備されており、最新のICT教育が導入され大学受験対策や看護師資格試験対策に向けての学習が行われています。そして、本校の魅力の一つが、県内や全国で優秀な成績を収め、多くのプロも輩出している運動部です。現在九つの運動部があり、日々の活動に情熱を燃やしています。今年の冬は、男女サッカー部、女子駅伝が全国大会に出場しました。また、昨年から行っているクリスマスイルミネーションは新たな本校の魅力となっています。生徒会や実行委員がデザインから設置までを行っており、本校正門前は1万個を超えるLEDで彩られています。今後毎年（11月下旬～1月中旬頃）続けていく予定です。ので、ぜひお越しください。



科、衛生看護科の3学科があり、普通科ではさらに3コースに分かれ、有名大学への進学やスポーツでの活躍などそれぞれが自分の夢を確実な未来に変えるべく特色ある学習に取り組んで

います。特進・看護科棟にはWi-Fi環境が完備されており、最新のICT教育が導入され大学受験対策や看護師資格試験対策に向けての学習が行われています。そして、本校の魅力の一つが、県内や全国で優秀な成績を収め、多くのプロも輩出している運動部です。現在九つの運動部があり、日々の活動に情熱を燃やしています。今年の冬は、男女サッカー部、女子駅伝が全国大会に出場しました。また、昨年から行っているクリスマスイルミネーションは新たな本校の魅力となっています。生徒会や実行委員がデザインから設置までを行っており、本校正門前は1万個を超えるLEDで彩られています。今後毎年（11月下旬～1月中旬頃）続けていく予定です。ので、ぜひお越しください。

三豊市のオススメスポット



● 今月の表紙 【写真提供：三豊市観光交流局】
高瀬町二ノ宮茶畑

安らぎと心むお茶の里が、三豊市高瀬町二ノ宮地区にあります。香川県のお茶生産高のおよそ6割を占め、大変良質なお茶の産地です。一面に広がる緑の畑には、日本人のお茶に対する和を感じます。4月の新茶の頃には、さめき二ノ宮ふるさと祭りで、茶摘み体験、新茶の試飲もできます。ぜひ訪れてみてください。（石井）

編集後記

「冬来たりなば春遠からじ」これはイギリスの詩人シェリーの言葉です。今は困難で苦しい状況に置かれていても、じっと耐え忍び努力をすれば道が拓ける、そんな意味でしょうか。

新年を迎え、心機一転身を引き締めて議会活動に邁進していきたいと存じます。

春のそよ風はすぐそこまで来ています。市民の皆さま

まにおかれましては、厳しい寒さをもう少しだけ我慢していただき、お体に十分ご留意の上、健やかにお過ごしください。（高木）



QRコードを読み取ると、市議会のホームページがご覧になれます

議会広報委員会

- 委員長 市川 洋介
- 副委員長 石井 勢三
- 委員 岩田 秀樹
- 委員 湯山 文吉
- 委員 高木 新
- 委員 近藤 武



この広報紙は、古紙配合率70%再生紙、また、環境に優しい植物油インクを使用しています。